

信せ至ひる。重治御懇の旨命令を證て御奉事へたまく。一應内裡の防禦
を指揮ね。然て本國寺の御分隊へ預く定めと小本ト勢の平
金騎と野村越中守ら隊小當副晴号をりて進退せよと號令を効く
當夜のまた刻報るころ最魏と勇士七人野村が陣門下投票り松原候
ハ濃川武士ふて赤野七郎た萬國少助六郎森源五八奥村平六左衛門酒
多勝右馬坂井興左衛門と申者う。連傳の聲起て假御所をほんとをもあ
承取り馳登くひかくと言寄りる小野村の怪。若や山徒の謀計をうん
飲追跡さをと謂ふ。行中す急湯壁く制止。渠候ハリテ生も殺ひを死
濃別者少て云候も違む。於心もべき輩をじと勧め小至停陣へ早寝
候地よりまきふよしりつとも奇特の縛小。將軍家小听奏うばさうぞ満足小
おがさうべし。遠隊小をて連徒を拒抗する名とをふ縛を預ふと殿心懃不意

養ひるかぞ。六個の勇士大手袖び翼え天へ俺们魁歎と。高名せんとぞ號
ぐ。程々當夜も覺彌まく立日の半天ぶと好勢一方餘騎を長蛇小
備へ大官とのぞ小近通す。小方より推出。喊せり。螺鼓を鳴。羣覩
の群を列ね。七八大海と斬るが像く。本國寺を當て推進す。遙暗四通路小隊伍
た。野村が陣の先隊よ。そなへて。若狭の浪士内藤備中守重純。若狭武田の山猿源内元盛。郊野源七郎
どりの者。最若野村が陣小かく。羣覩の二人と一隊ふうて群覩ふこと好
勢の大軍を殊ともせぞ。槍を抜く突投。その後左右小近旋ふ。遙勢威小
勢小狂強さを事やある。中少捉圍一絆も余計を。誰て捕やと喰えうな
自捨とかつ取て正魁小進ミ戰。がまき山森十郎。奈良佐などと吉成を助